

イネ縞葉枯病に対する収穫後の防除対策について

平成 29 年 10 月 2 日

茨城県県西農林事務所

タイトル

生産者のみなさまへ

イネ縞葉枯病を減らすため、収穫後はすみやかに耕起を行いましょ！

来年のイネ縞葉枯病の発生を抑えるためには、ウイルスを媒介するヒメトビウンカの生息密度を減らすことが重要です。

- ひこばえ（再生イネ）はイネ縞葉枯病ウイルスの伝染源や媒介虫であるヒメトビウンカの生息場所となり、本病に感染したひこばえが多いと保毒虫率が高くなり、翌年、多発を招く恐れがあります。このため、収穫後はすみやかに水田の耕起を行いましょ。
- また、ヒメトビウンカは水田周辺の畦畔・土手等のイネ科雑草で越冬するので、畦畔等の除草を徹底しましょ。

ヒメトビウンカ



成虫（雄）

成虫（雌）

幼虫

水田のひこばえ 水田周辺のイネ科雑草



ヒメトビウンカ幼虫の生息場所



ヒメトビウンカ幼虫の越冬場所

問合せ先

茨城県県西農林事務所振興・環境室農業振興課

電話：0296-24-9169 FAX：0296-25-0018